

2014 中野区区民意識・実態調査

《概要版》

調査の概要

【調査の項目】

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 定住意向 | 8 外国の方との交流など |
| 2 生活環境の満足度 | 9 男女平等 |
| 3 中野駅周辺 | 10 医療保険制度 |
| 4 日用品等の購入 | 11 日常使用している通信機器 |
| 5 公園・広場利用 | 12 区政情報の入手 |
| 6 地震災害への対策 | 13 施策への評価・要望 |
| 7 社会や地域との関わり | 14 中野区基本構想の改定 |

【調査対象】 中野区民で20歳以上の男女個人

【標本数】 2,000人

【有効回収数】 1,249人（有効回収率62.5%）

【標本抽出方法】 層化二段無作為抽出法

【調査期間】 平成26年9月11日（木）～平成26年10月2日（木）

【調査方法】 郵送配布・郵送回収

概要版の見方

- 1 （複数回答）と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 集計は小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答率を合計しても100%にはならない場合があります。
- 3 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。このため、複数回答の設問については合計が100%を超えることがあります。
- 4 グラフや数表中の「n=*」（*は数字）は設問の回答者数を表します。

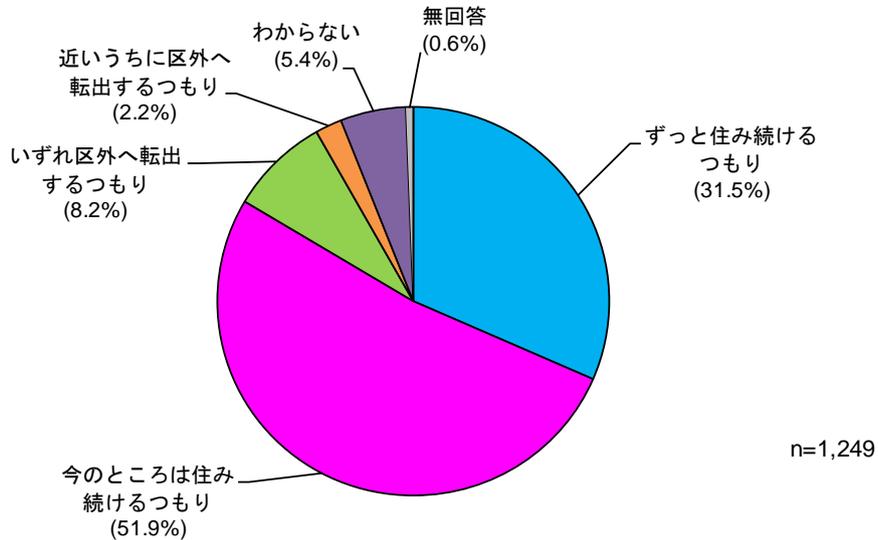
2014年（平成26年）12月

中野区

1 定住意向

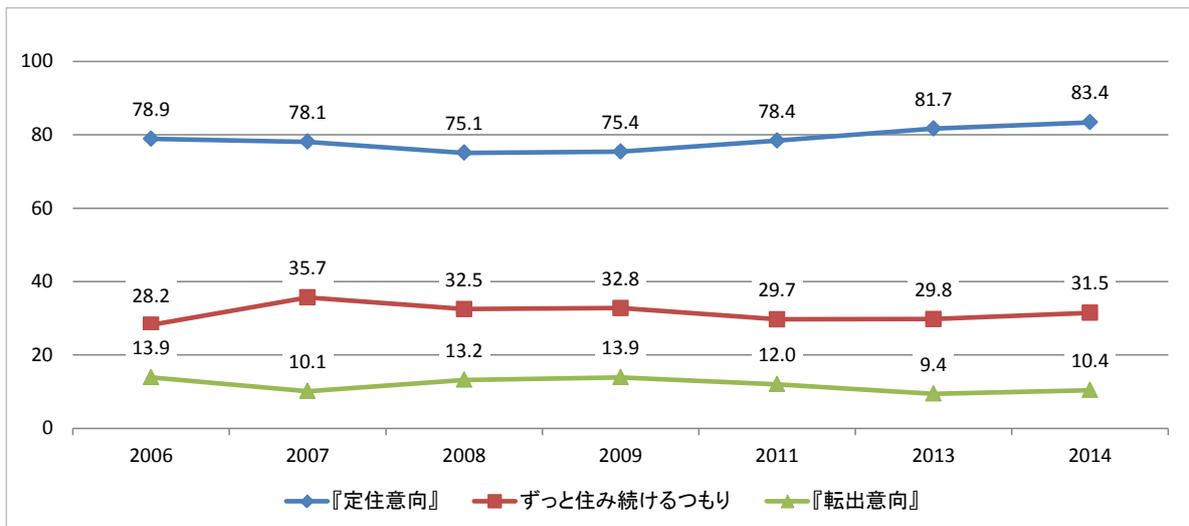
1 定住意向

定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けるつもり」(31.5%)、「今のところは住み続けるつもり」(51.9%)を合わせた『定住意向』は8割以上となっている。一方、「いずれ区外へ転出するつもり」(8.2%)、「近いうちに区外へ転出するつもり」(2.2%)を合わせた『転出意向』は1割強となっている。



1-1 定住意向の推移

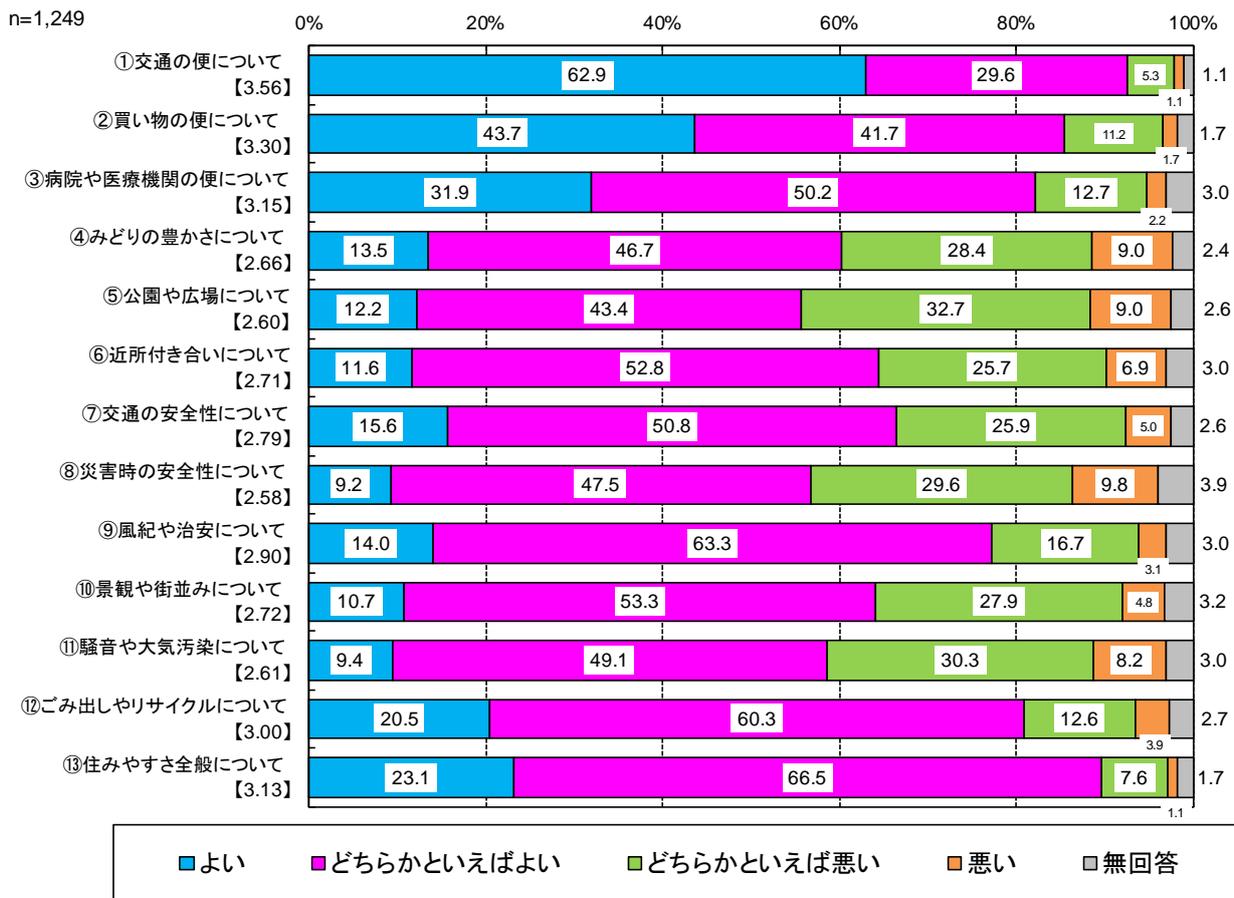
この推移をみると、『定住意向』は2006年以降減少傾向であったが、2009年から増加に転じ、今回は83.4%となっている。また、『転出意向』は2009年から2013年まで減少傾向が続いていたが、今回は10.4%と増加に転じた。



2 生活環境の満足度

1 生活環境の満足度

自宅周辺の生活環境についてどのように感じるか13項目にわたり聞いたところ、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた『よい評価』は「①交通の便」(92.5%)と最も高く、次いで、「⑬住みやすさ全般」(89.6%)、「②買い物の便」(85.4%)となっている。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた『悪い評価』は「⑤公園や広場」(41.7%)が最も高く、次いで、「⑧災害時の安全性」(39.4%)、「⑪騒音や大気汚染」(38.5%)となっている。



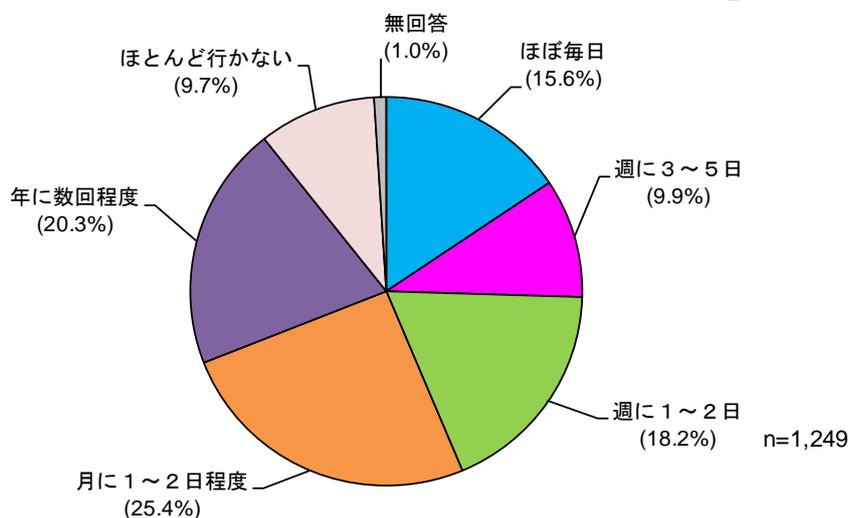
* 【】内の数値は、選択肢「よい」は4点、「どちらかといえばよい」を3点、「どちらかといえば悪い」を2点、「悪い」を1点として、評価点を算出している。

3 中野駅周辺

1 中野駅周辺の利用頻度

中野駅周辺へ行く頻度を聞いたところ、「月に1～2日程度」(25.4%)が最も高く、次いで「年に数回程度」(20.3%)、「週に1～2日」(18.2%)となっている。

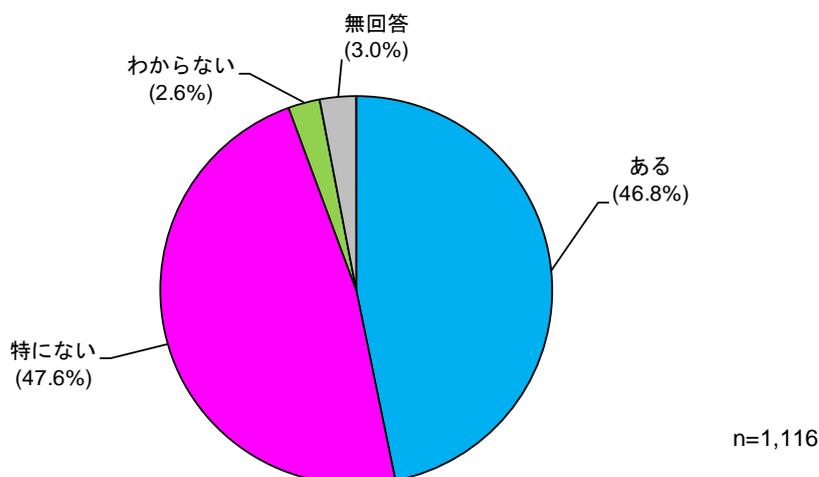
「ほぼ毎日」、「週に3～5日」、「週に1～2日」を合わせた『週1回以上』行く人は約4割である。



2 中野駅周辺の利用で不便・不満の有無

中野駅周辺を利用する人に不便や不快など不満の有無を聞いたところ、「ある」は46.8%、「特にない」は47.6%となっている。

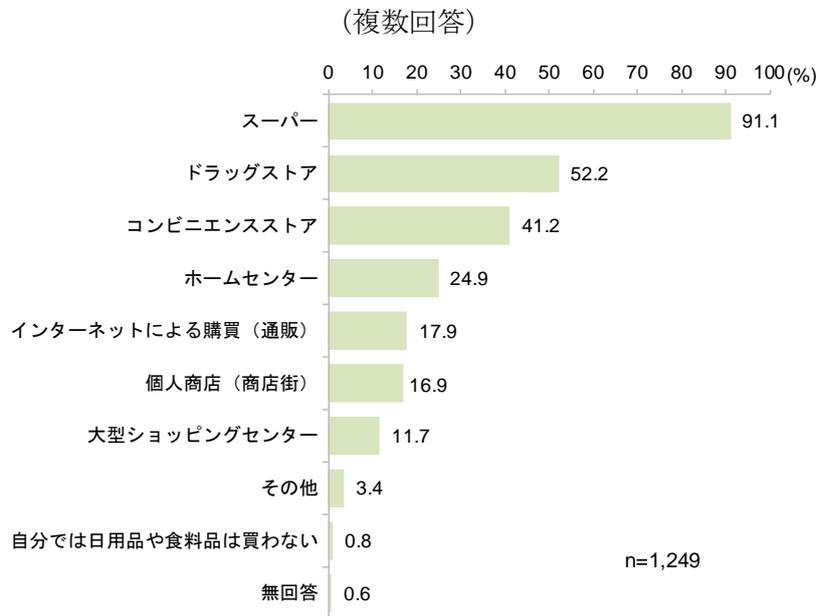
また、中野駅周辺を利用する人で不満がある人に不満の内容(複数回答)を聞いたところ、「自転車と歩行者が混在し危険を感じる」(60.5%)が最も高く、次いで「混雑していて歩きにくい」(54.4%)、「自転車マナーが悪い人がいる」(37.0%)、「道路が狭い」(34.1%)となっている。



4 日用品等の購入

1 日用品や食料品の購入場所

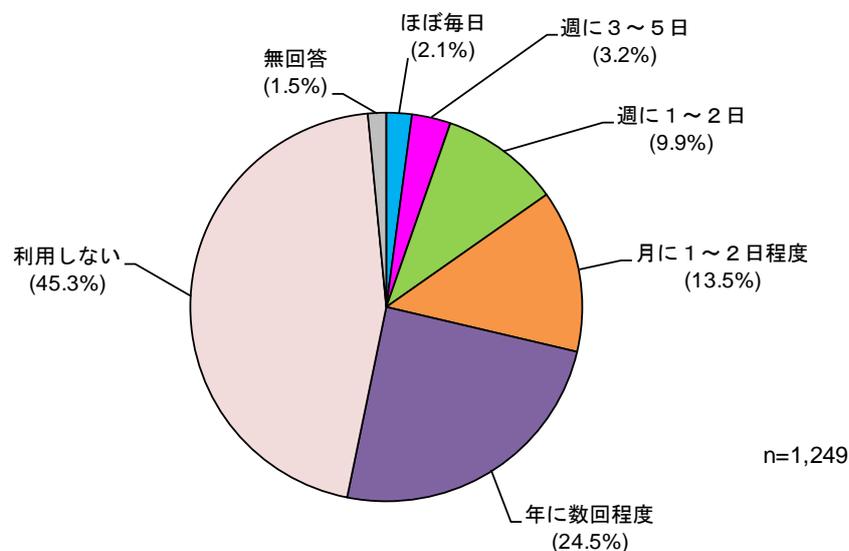
日用品や食料品の購入場所（複数回答）を聞いたところ、「スーパー」（91.1%）が最も高く、次いで「ドラッグストア」（52.2%）、「コンビニエンスストア」（41.2%）となっている。「個人商店（商店街）」は16.9%である。



5 公園・広場利用

1 区内の公園や広場の利用状況

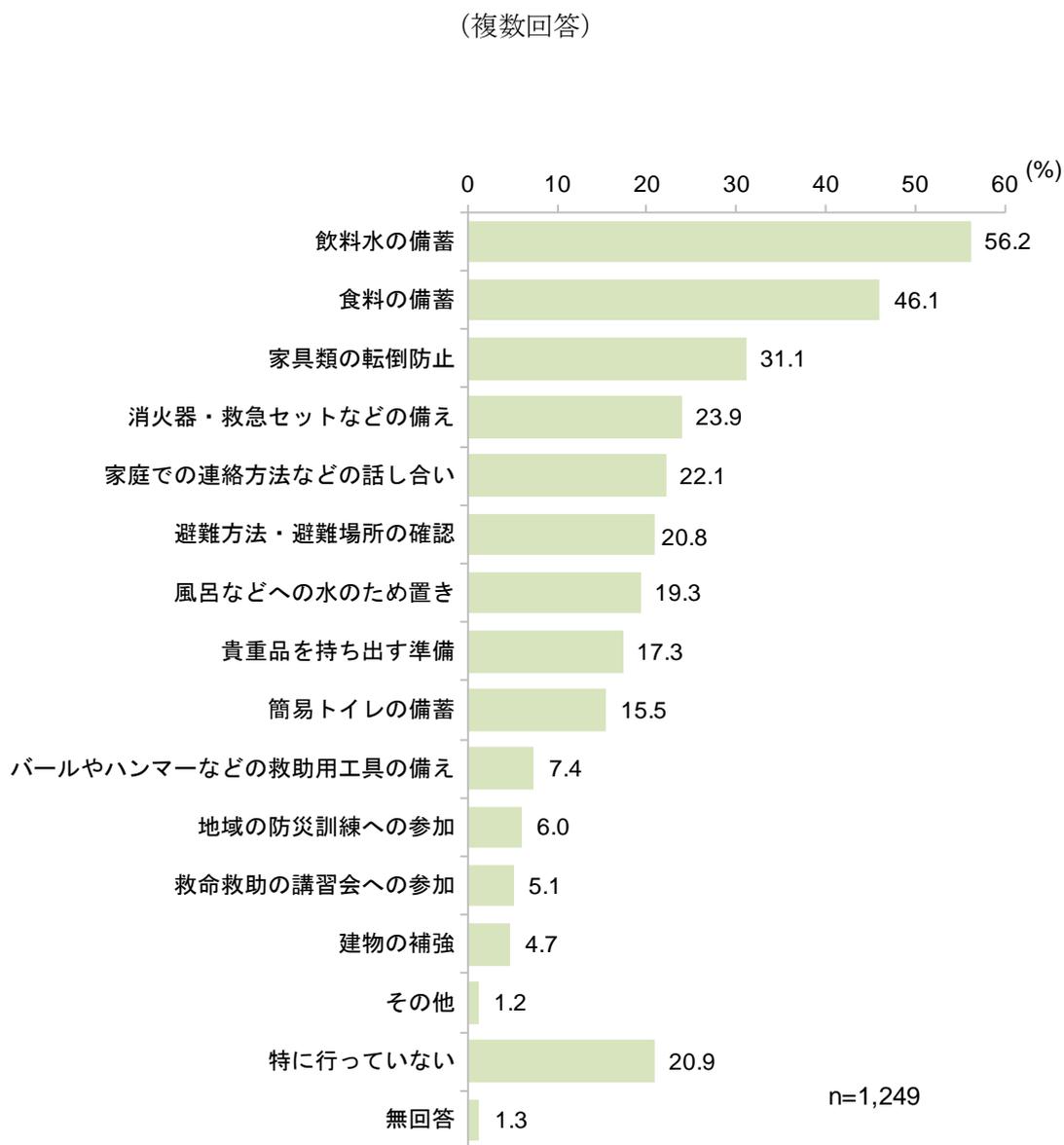
公園や広場の利用頻度を聞いたところ、「利用しない」（45.3%）が最も高く、次いで「年に数回程度」（24.5%）、「月に1～2日程度」（13.5%）、「週に1～2日」（9.9%）となっている。



6 地震災害への対策

1 家庭内での備え

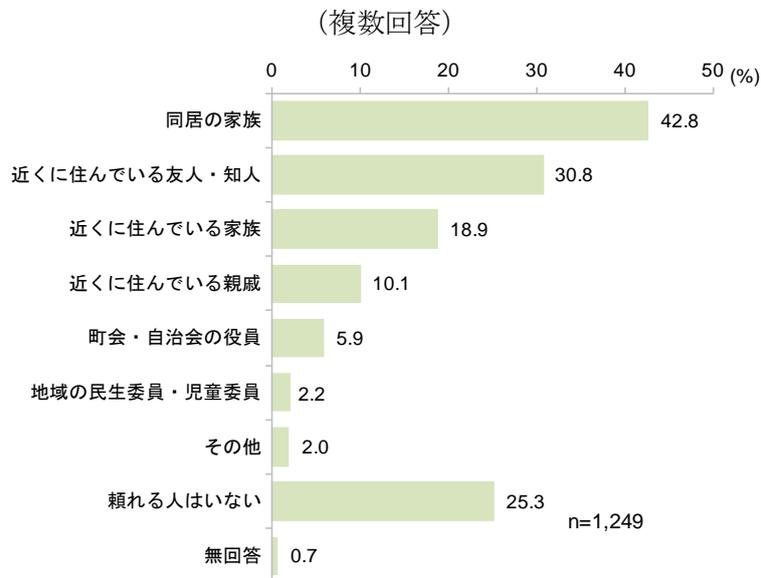
地震災害に備えた家庭内での対策（複数回答）を聞いたところ、「飲料水の備蓄」（56.2%）が最も高く、次いで「食料の備蓄」（46.1%）、「家具類の転倒防止」（31.1%）となっている。また、「家庭での連絡方法などの話し合い」は22.1%、「避難方法・避難場所の確認」は20.8%となっている。さらに、「特に行っていない」（20.9%）と2割以上的人是対策を講じていない。



7 社会や地域との関わり

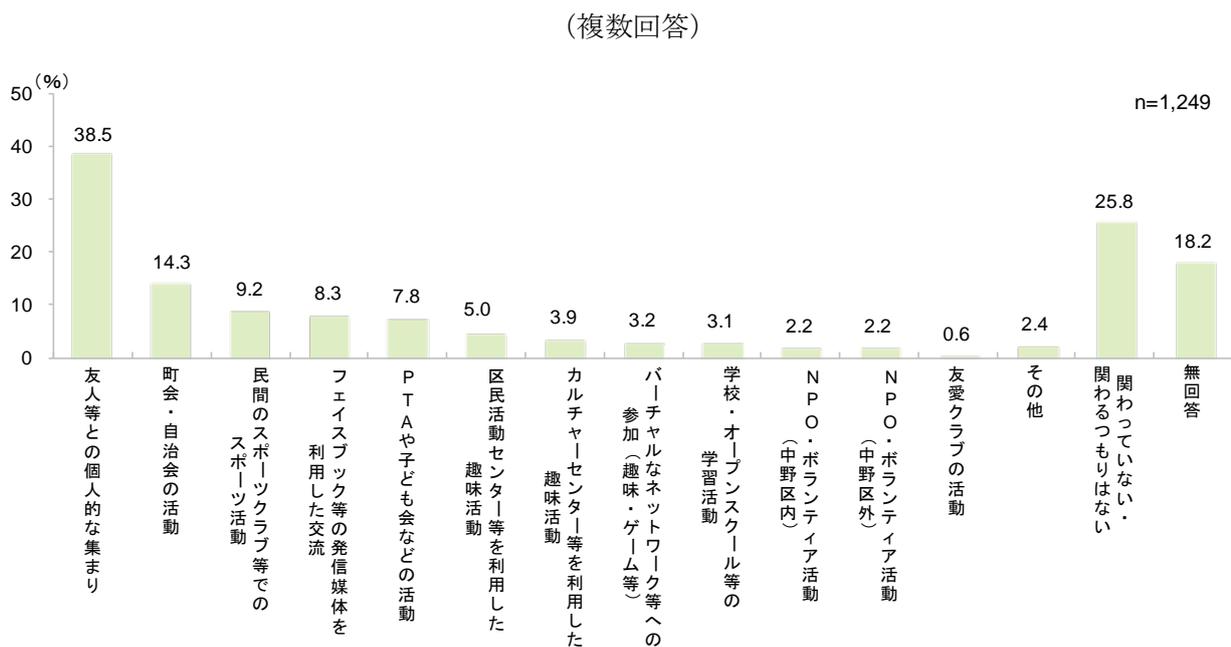
1 地域で頼れる人の有無・頼れる対象者

いざというとき、お住まいの地域に頼れる人（複数回答）を聞いたところ、「同居の家族」（42.8%）が最も高く、次いで「近くに住んでいる友人・知人」（30.8%）、「近くに住んでいる家族」（18.9%）となっている。また「頼れる人はいない」は25.3%となっている。



2 地域活動の状況

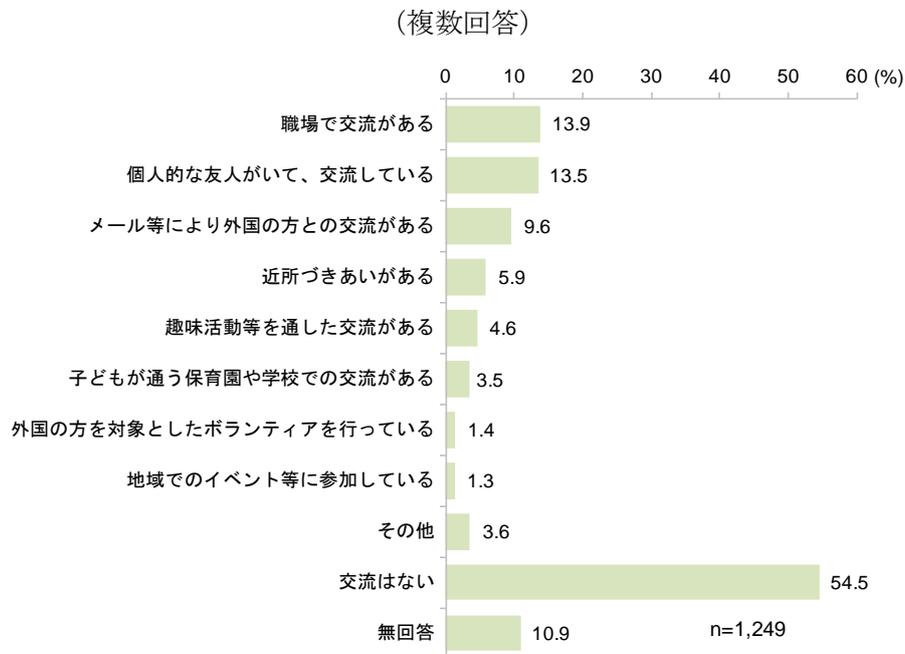
最近1年間に、仕事以外で社会や地域に関わった状況（複数回答）を聞いたところ、「友人等との個人的な集まり」（38.5%）が最も高く、次いで「関わっていない・関わるつもりはない」（25.8%）、「町会・自治会の活動」（14.3%）、「民間のスポーツクラブ等でのスポーツ活動」（9.2%）となっている。



8 外国の方との交流

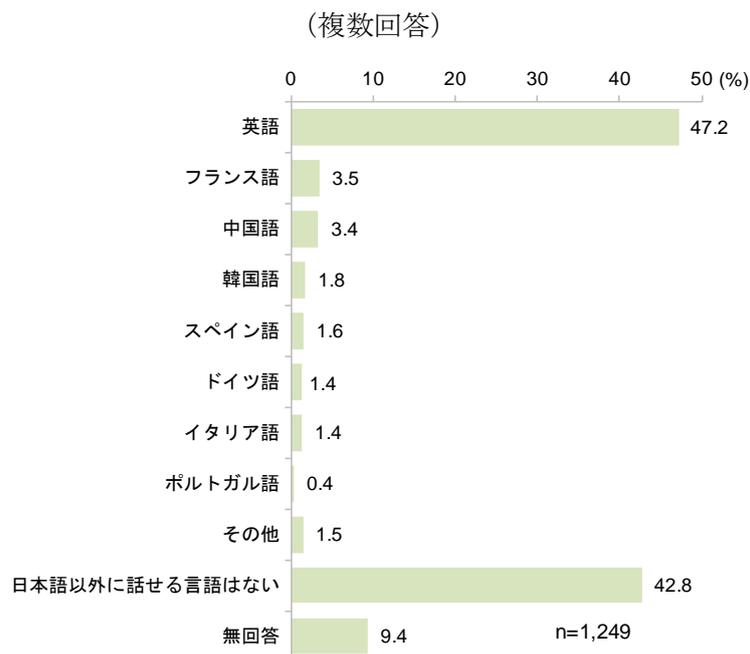
1 外国人との交流

外国人との交流はあるか(複数回答)を聞いたところ、交流がある中では「職場で交流がある」(13.9%)が最も高く、次いで「個人的な友人がいて、交流している」(13.5%)、「メール等により外国の方との交流がある」(9.6%)となっている。



2 外国語の会話状況

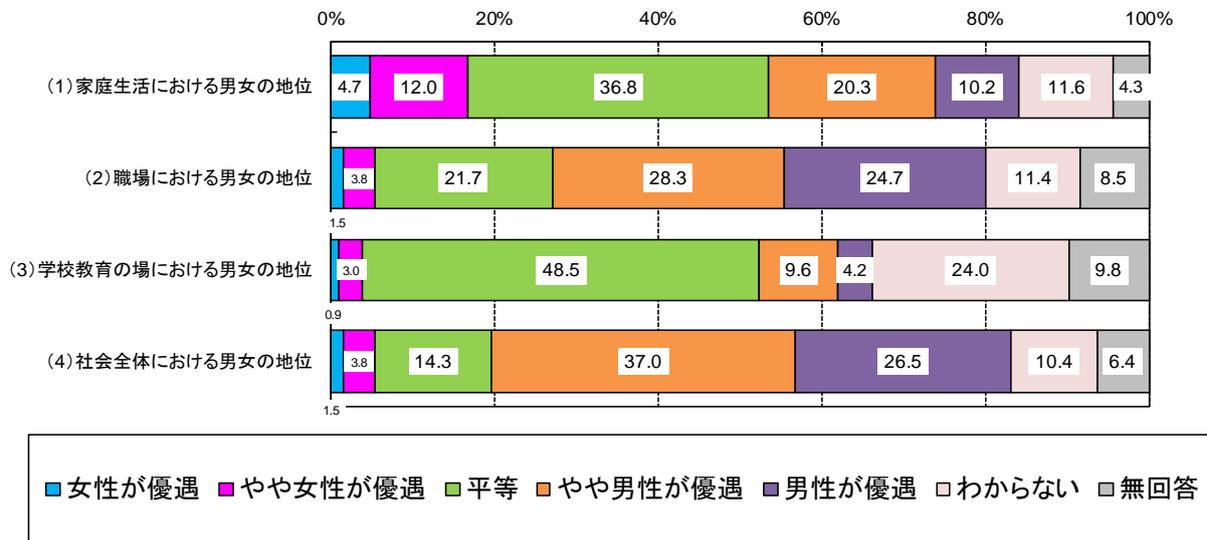
日本語以外に話せる言語(複数回答)を聞いたところ、「英語」(47.2%)が最も高く、次いで「フランス語」(3.5%)、「中国語」(3.4%)となっている。



9 男女平等

1 男女の地位の平等感

4つの分野について、男女の地位が平等だと思うかを聞いたところ、「平等」が最も高かったのは『学校教育』（48.5%）であり、次いで『家庭生活』（36.8%）、『職場』（21.7%）、『社会全体』（14.3%）となっている。

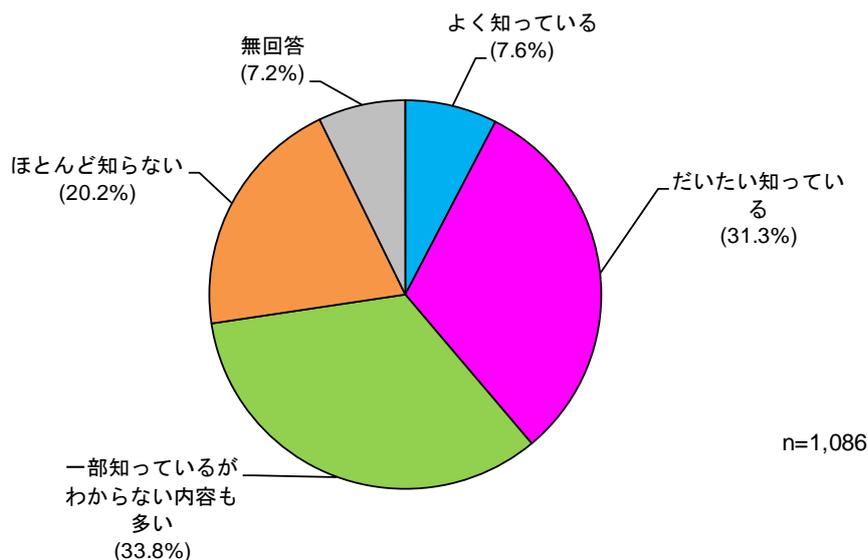


10 医療保険制度

1 国民健康保険のしくみの周知度

74歳以下の人に国民健康保険のしくみをどの程度知っているかを聞いたところ、「一部知っているがわからない内容も多い」(33.8%)が最も高く、次いで「だいたい知っている」(31.3%)、「ほとんど知らない」(20.2%)となっている。

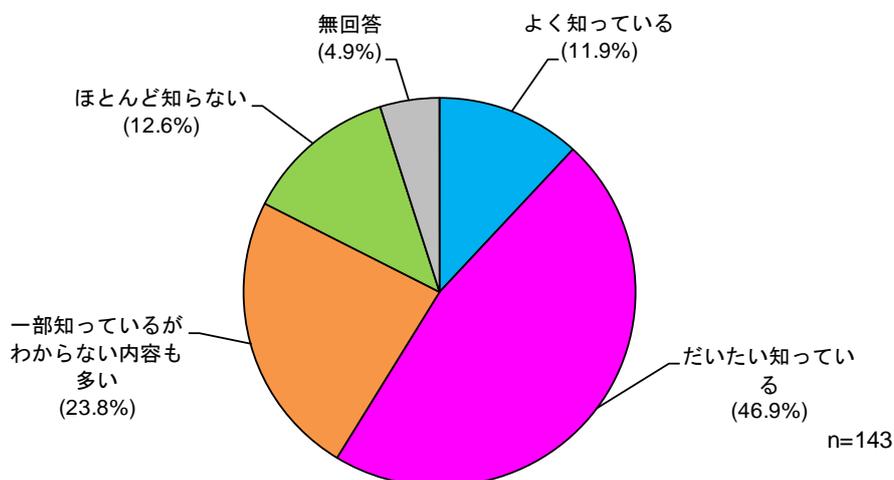
「よく知っている」、「だいたい知っている」、「一部知っているがわからない内容も多い」を合わせた『知っている』は7割を超え高くなっている。



2 後期高齢者医療制度の周知度

75歳以上の人に、後期高齢者医療制度のしくみについてどの程度知っているかを聞いたところ、「だいたい知っている」(46.9%)が最も高く、次いで「一部知っているがわからない内容も多い」(23.8%)、「ほとんど知らない」(12.6%)となっている。

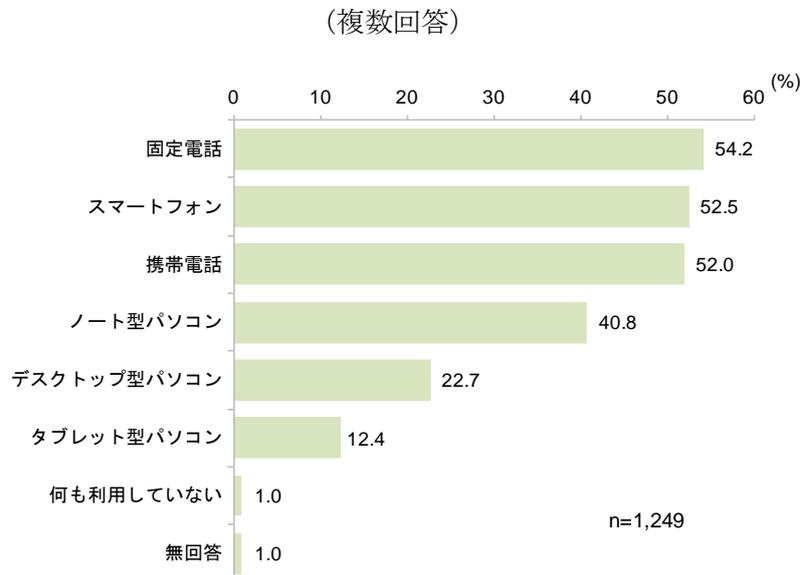
「よく知っている」、「だいたい知っている」、「一部知っているがわからない内容も多い」を合わせた『知っている』は8割を超え高くなっている。



11 日常使用している通信機器

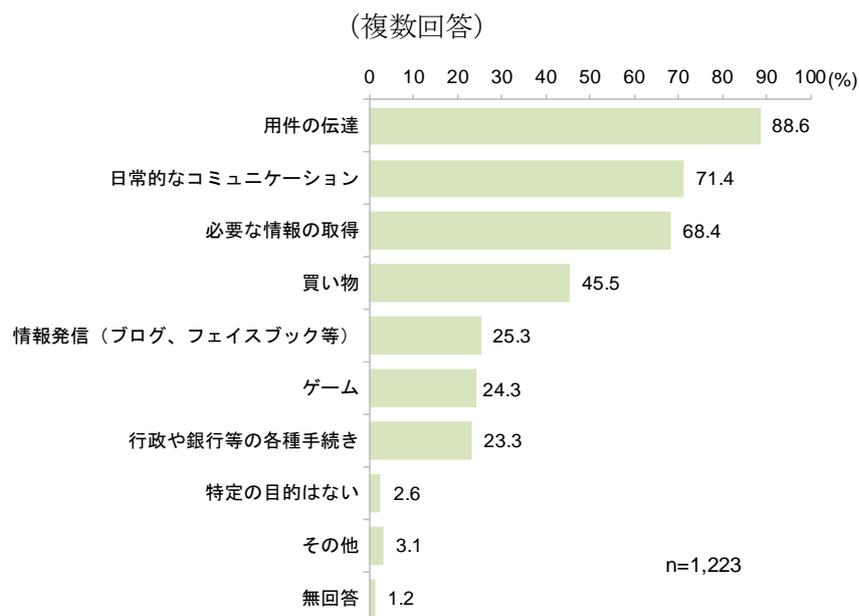
1 日常生活で利用する通信機器の種類

日常生活で利用している通信機器（複数回答）を聞いたところ、「固定電話」（54.2%）が最も高く、次いで「スマートフォン」（52.5%）「携帯電話」（52.0%）、「ノート型パソコン」（40.8%）となっている。



2 通信機器の利用目的

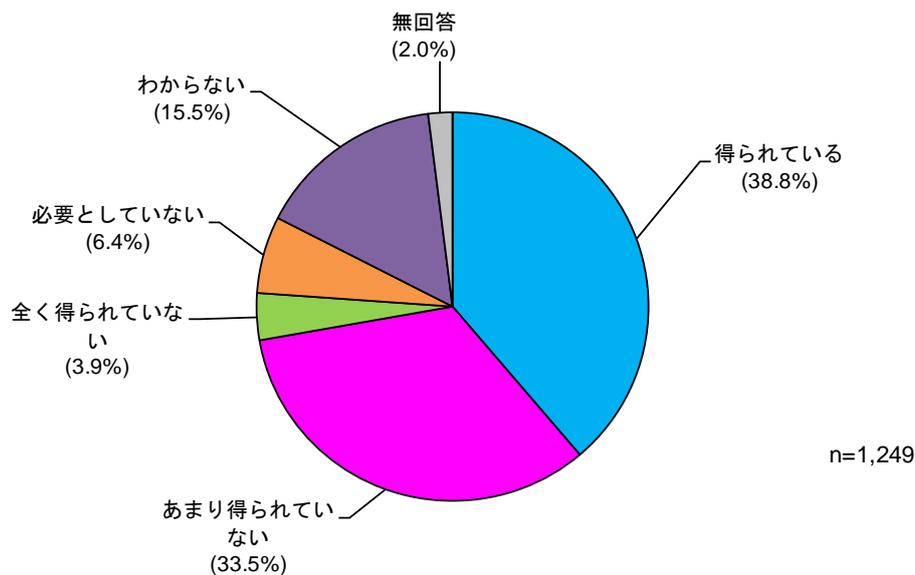
日常的に通信機器を利用している人に、利用目的（複数回答）を聞いたところ、「用件の伝達」（88.6%）が最も高く、次いで「日常的なコミュニケーション」（71.4%）、「必要な情報の取得」（68.4%）、「買い物」（45.5%）となっている。



12 区政情報の入手状況

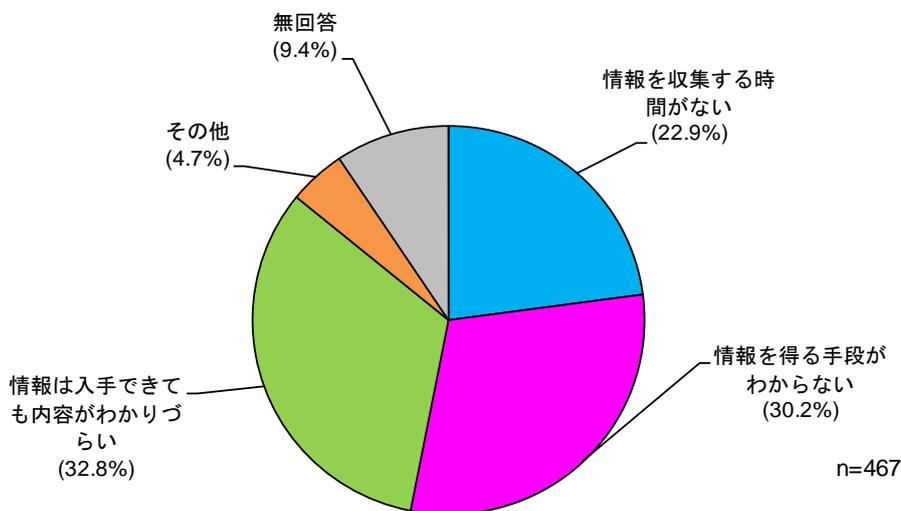
1 区政情報の入手状況

必要とする中野区政の情報を得られているかを聞いたところ、「得られている」(38.8%)が最も高く、次いで「あまり得られていない」(33.5%)、「わからない」(15.5%)、「必要としていない」(6.4%)となっている。「あまり得られていない」と「全く得られていない」を合わせた『得られていない』人は約4割である。



2 区政情報が得られない理由

中野区政情報を得られていない人に、その理由(複数回答)を聞いたところ、「情報は入手できても内容がわかりづらい」(32.8%)が最も高く、次いで「情報を得る手段がわからない」(30.2%)、「情報を収集する時間がない」(22.9%)となっている。



13 施策への評価・要望

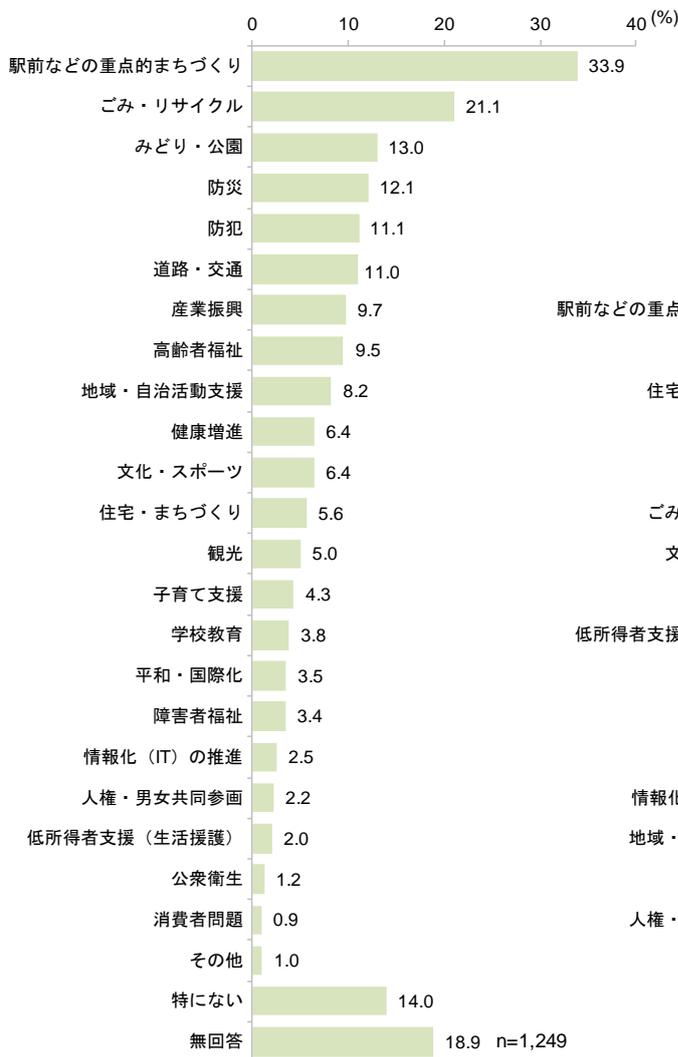
1 区の施策への評価と要望

区が特に力を入れていると評価できる施策（複数回答）を聞いたところ、「駅前などの重点的まちづくり」（33.9%）が最も高く、次いで「ごみ・リサイクル」（21.1%）、「特にない」（14.0%）、「みどり・公園」（13.0%）となっている。

また、今後特に力を入れてほしい施策を、1位から3位までの順位を聞いたところ、合計では「防災」（31.5%）が最も高く、次いで「高齢者福祉」（27.1%）、「防犯」（20.7%）となっている。

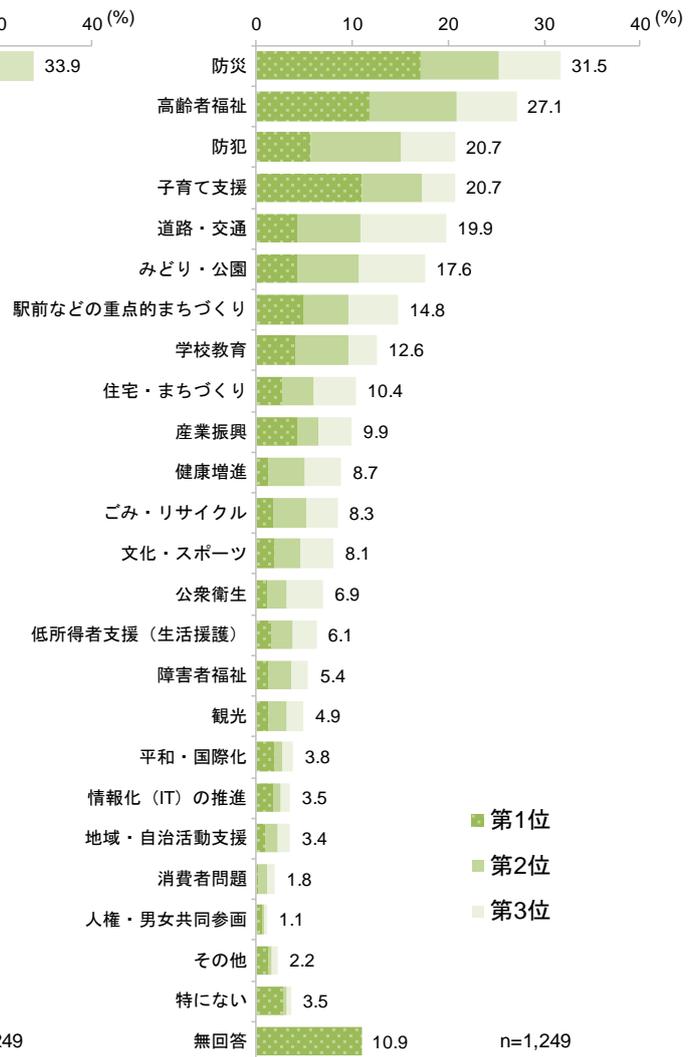
【区の施策への評価】

（複数回答）



【区の施策への要望】

（第1位～3位と合計）

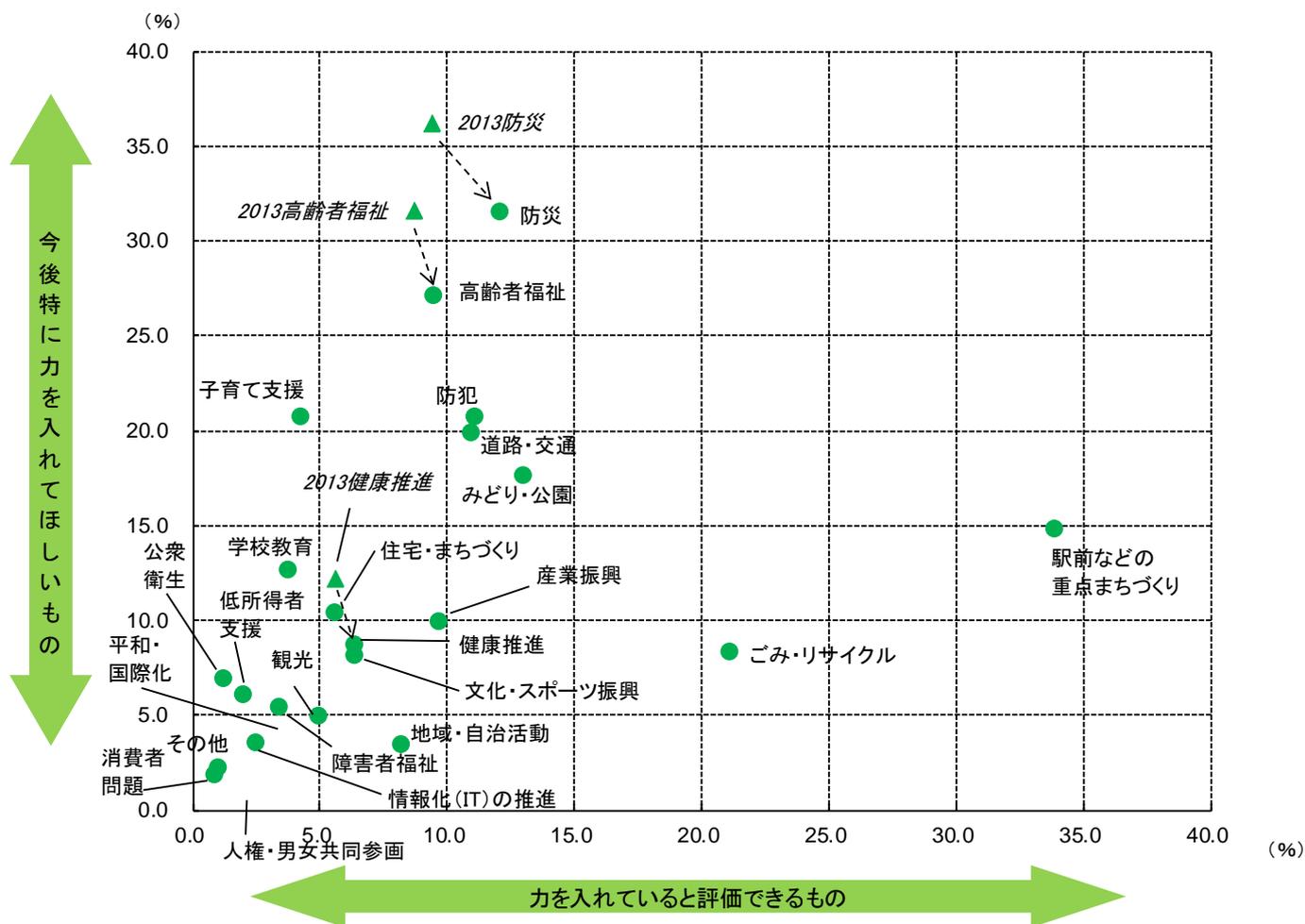


1-1 区の施策への評価と要望（散布図）

区の施策への評価と要望の関係をみるために「力をいれていると評価できるもの」を横軸に「今後特に力を入れてほしいもの」を縦軸にとり、22項目とその他の位置をあらわしたのが下の図である。

この図では、左下に位置するほど「評価」も「要望」も低い施策であることを、反対に図の右上に位置するほど「評価」も「要望」も高い施策であることを意味している。さらに、左上に位置するほど「評価」は低く、「要望」が高い施策であることを、反対に右下に位置するほど「評価」が高く、「要望」が低いことを意味している。

それぞれのカテゴリー別でみると、左上には「防災」、「高齢者福祉」、「子育て支援」、「防犯」、「道路・交通」が位置づけられている。また、右下には「ごみ・リサイクル」「駅前などの重点まちづくり」が位置づけられている。

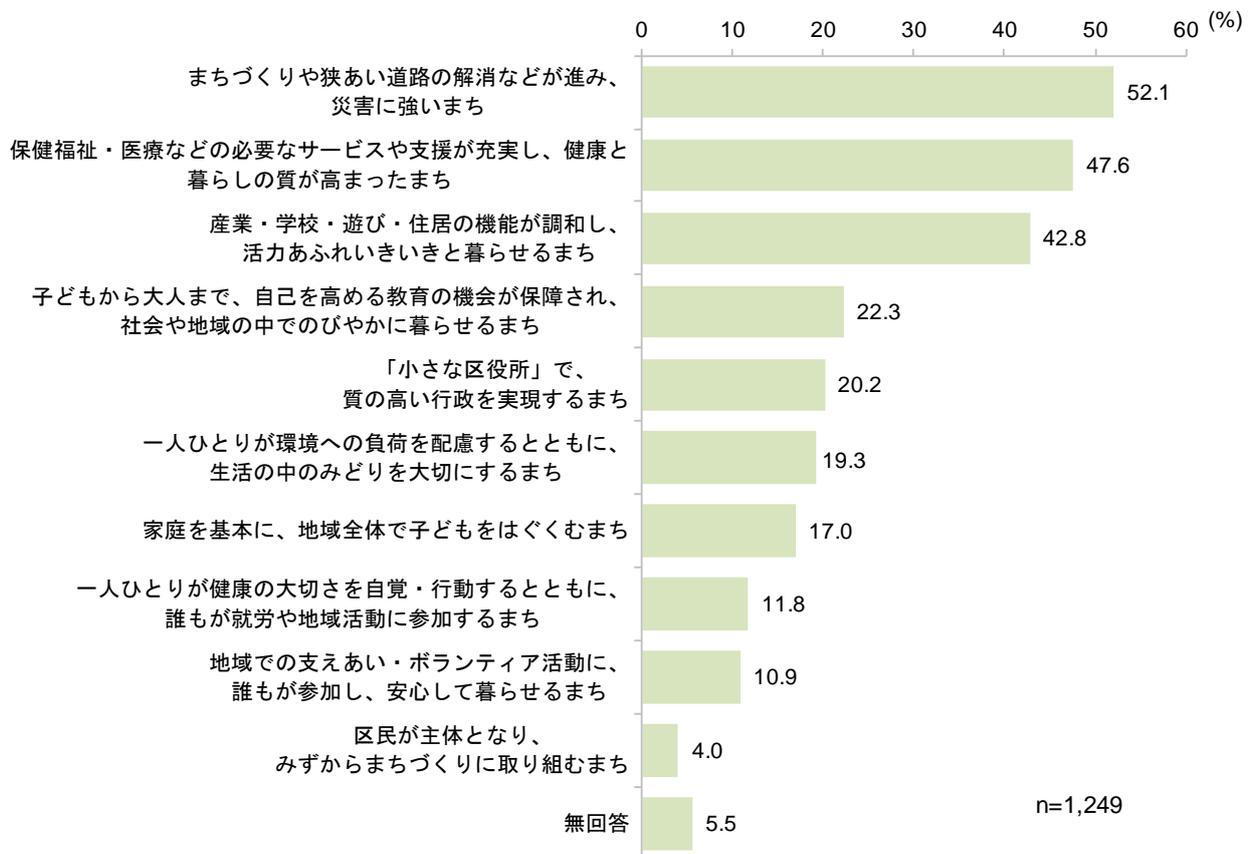


14 中野区基本構想の改定

1 10年後のまちへの期待

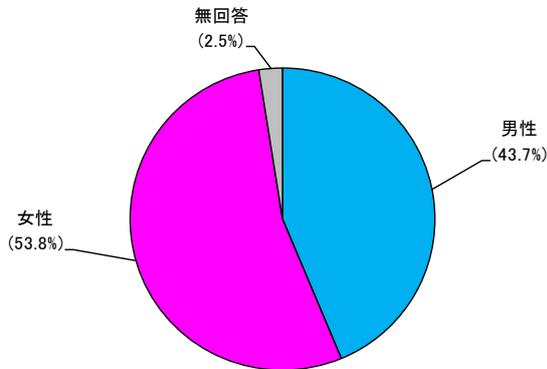
10年後の中野のまちが、どのようなまちになってほしいか（複数回答）を聞いたところ、「まちづくりや狭あい道路の解消などが進み、災害に強いまち」（52.1%）が最も高く、次いで「保健福祉・医療などの必要なサービスや支援が充実し、健康と暮らしの質が高まったまち」（47.6%）、「産業・学校・遊び・住居の機能が調和し、活力あふれいきいきと暮らせるまち」（42.8%）、「子どもから大人まで、自己を高める教育の機会が保障され、社会や地域の中でのびやかに暮らせるまち」（22.3%）となっている。

（複数回答）

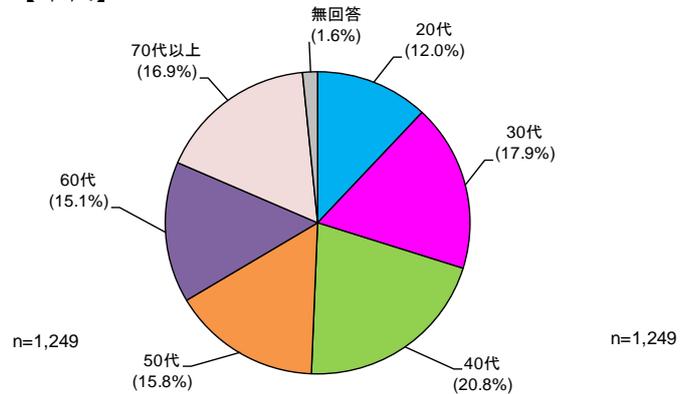


回答者属性

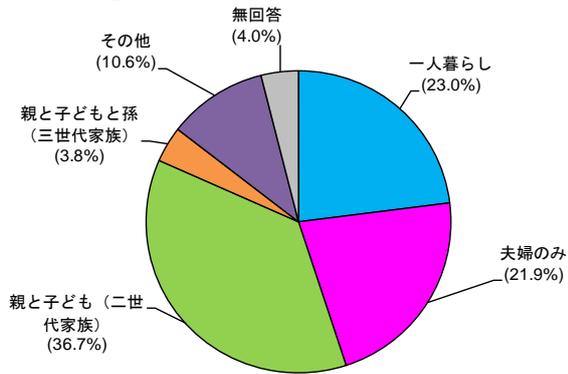
【性別】



【年代】



【家族構成】



【居住地域】



2014 中野区区民意識・実態調査概要版

平成 26 年 12 月

文書番号 26 中政企第 522 号

発行 中野区政策室企画分野政策情報担当

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電 話 03-3228-8892

F A X 03-3228-5643